

# カトリック六甲教会 教会報



## アジア太平洋 Magis 青年大会

助任司祭 渡辺 徹郎 S. J.



12月26日から1月3日にかけて、アジア太平洋地域の Magis 大会が台湾で開催されました。Magis とはイエズス会が世界各国に展開している聖イグナチオの霊性にもとづく青年(18~35歳)グループです。日本国内では東京のイグナチオ教会と六甲教会で活動しています。ちなみに昨年、六甲教会では青年会の名称を「Magis 青年会」へと改めました。

今回の大会にはアジア太平洋地域の12の国々とゲスト国であるポーランドから、青年とイエズス会員が合わせて約90名集まりました。日本からは7名の青年(六甲教会3名、イグナチオ教会4名)と私が参加しました。

プログラムはすべて英語で行われます。最初の二日間は新北市のイグナチオ高校に宿泊し

ながら、ワークショップや遠足などで参加者は交流を深めました。その後の四日間は小グループに分かれ、それぞれエクスペリメントとして巡礼や原住民の生活体験などに派遣されました。最後の二日間は台湾中部にあるイエズス会の黙想の家に移動し、振り返りの黙想を行いました。

参加者はこの大会を通じて、意識の究明や識別といったイグナチオ的霊性に深く触れる機会をもつことができました。また、アジアではフィリピンを除いてカトリック信徒は社会のマイノリティですが、マイノリティとして生きるアジアのカトリック青年同士が短期間であれどもに時間を過ごし、交流を深めることができたことも大きな収穫でした。そして普段は限られたイエズス会員としか接することができませんが、本大会ではアジア各国の様々な文化的背景をもつイエズス会員が同伴しますので、参加者はそれぞれの内にある「司祭・修道者像」をより豊かにすることができたと思います。

日本からの参加者にとってこの大会は自身の信仰と真剣に向き合う機会となり、エマオにおける弟子のように「心が燃える」体験となったようです。また、イエズス会日本管区の東西の小教区の青年同士の交流ができたという意味でも新しい試みとなったといえるでしょう。

次回は2027年にワールドユースデーに合わせて韓国で Magis 世界大会が開かれます。2023年にリスボンで行われた前回大会では世界中から2000人のカトリック青年が集まりました。今回は人数制限があったため、六甲教会から3名しか派遣できませんでしたが、次回はより多くの青年を六甲教会から派遣できるよう努めたいです。



# 2025年度第5回小教区評議会 議事録(要約)

日時:2026年1月11日(日)11時30分～13時30分

場所:信徒会館 第1・2会議室

出席者:堤 福生(議長)、荏原いずみ(副議長)、中村治也(副議長)、岩谷美禰子(書記)、三木宏夫(書記)、  
蛭田 武(三日月会)、松平麻也(宣教・養成部)、吉村千里(教会学校)、井川直哉(地区会)、中西裕樹  
(典礼部)、井川伸子(社会活動部)、大上尚子(広報部)、藤井敦子(婦人会)、本下 稔(施設管理部)、  
松井理直(防災委員会)、宗行孝之介(周年事業プロジェクトチーム)、橋岡尚美(教会掃除改善プロジェ  
クトチーム)、西川 葉(事務所)

## 1. 主任司祭の挨拶

今日は「主の洗礼」の祝日で、この日からイエス様の公的活動が始まったとされている。  
時節の節目となり、今後も色々あると思われるが、よろしく願いたい。

## 2. 報告事項

### (1) 教会大掃除

室内:11月29日(土)9:00～10:30 神父様2人を含む約40名が参加。

屋外:12月13日(土)9:00～11:30 約30名が参加。落ち葉清掃と溝掃除。

### (2) 新聖堂30周年記念ミサ 11月30日(日)

片柳弘史神父(カトリック山口教会[サビエル記念聖堂]主任司祭)をお迎えし、加藤信也神父との共同司式。  
その後、片柳神父の講演会と記念撮影を行った。 ※1月号教会報参照。

### (3) クリスマス関連行事報告 ※1月号教会報参照。

①クリスマス飾り付け(11月23日[日])、片付け(1月10日[土])。

②教会学校クリスマス会・終業式(12月13日[土])子どもたち約20名が参加。

※1月号教会報参照。

③クリスマス音楽の集い(12月21日[日])

192名が参加。献金102,678円は11月発生の大規模火災被災地(大分市佐賀関)へ全額送金。

※1月号教会報参照。

### ④主の降誕ミサの参加者数

12月24日(水):17時244名(+20名)、19時215名(+20名)、21時93名(+20名)、

12月25日(木):7時50名(+8名)、10時151名(▲30) ( )内の数字は、昨年比

⑤神の母聖マリアミサ(1月1日[木]) 7時半 61名(+5)、10時 172名(+40)

### (4) その他各部・各会からの報告

①セキュリティ対策について ※1月号教会報参照。

全ての会議室が施錠可能となった。監視カメラの設置、事務室出入口のオートロック化、避難路の確保工  
事などを12月末までに終了した。

## 3. 協議事項

### (1) 2026年度活動計画と予算

2026年度活動計画(別途配布)

2026年度予算について(別途配布)

①各部会からの申請内容を承認。

②2つの新たな予算枠新設を承認。

・「80周年記念事業委員会」2026～2028年

・「事務室」(これまで施設管理部の予算としていたが、独立予算とする)

### (2) 美化委員会(仮称)の発足について(教会掃除改善プロジェクトチーム:橋岡)

・活動内容の説明:掃除当番の年間計画作成、掃除道具の管理、消耗品の補充、  
新規当番登録者(転入・受洗の方を含む)の管理。

・設置時期:2026年4月1日

・予算:200千円は地区会からの計上(部会予算申請時は、委員会が未発足のため、申請なし。)

・小教区評議会として、美化委員会の設置を承認。

メンバーは別途相談。

(3) 自由献金の取扱いについて(別途配布) (→4 頁に掲載)

補足;5. 愛の献金用途の拡大について

(1)-②「教会内外を問わず必要に応じ、緊急性の高いと認められる場合」と修正。

(2) ②の用途:上限額を撤廃。

(4) 2026 年度年間行事予定について(広報部)

行事、会合の重なりがある場合、話し合いで調整。

・三日月会例会:9 月 15 日(→9 月 21 日に変更)

・6 月 7 日(日)イグナチオ喫茶の変更を検討 …等。

(5) 小教区評議会メンバーの追加

・評議員は規約で決まっているので、規約の変更が必要な追加はしない。

(「カトリック六甲教会小教区評議会規約」参照)

・なお、以下の委員会名を新年度役員会・評議会一覧の下に記載。

各委員会のコーディネーターは必要に応じ評議会に出席する。

新規掲載の委員会名は次の通り。

防災委員会、図書委員会、80 周年記念事業委員会、ハラスメント委員会、美化委員会、  
墓地委員会

#### 4. 今後の予定

(1) 新成人祝福式(1 月 11 日[日]) 10 時ミサ中に4名が祝福を受けた。

(2) 三日月会新年親睦会は中止。

(3) ハラスメント研修会(1 月 25 日[日]) 10 時ミサ後。

(4) 2026 年度行事予定調整会議(2 月 8 日[日]) 11 時 30 分)

#### 5. その他各部・各会からの報告

○社会活動部:2 月 28 日(土)14 時～ 移動学習会(カトリック住吉教会)

○宣教・養成部:3 月 1 日(日)10 時ミサ後 講演会(木鎌耕一郎氏・神戸松蔭大学)

3 月 14 日(土) 黙想会 カトリック六甲教会神父が指導。

○婦人会:イグナチオ喫茶について

5 グループと個人 6 名が協力を申し出。

壮年会と併せて各グループ年 1~2 回の担当で実施可能。

○渡辺神父

・教皇レオ 14 世が、“今の高齢者は若くて元気な『ヤングエルダリー』である”というお話をされている。

・今後の宣教を考えると成年司牧(シニア・ミニストリー)を考慮せざるを得ず、

65 歳以上を想定して何らかの活動を始められればというアイデアを持っている。

以上

次回、第 6 回小教区評議会は、2026 年 3 月 8 日(日)11:30、第 1・2 会議室  
行事予定調整会議(2 月 8 日[日])11 時 30 分

#### <アレルヤ唱の歌い方について>

数人の方から、アレルヤ唱の歌い方について質問がありました。以前は「アレルヤ」だけでなく「唱句」も全員で歌っていましたが、今は独唱者だけが「唱句」を歌っている— ということについてです。

これは 2015 年に「ローマ・ミサ典礼書の総則」が変更されたからです。新しい総則(62)の解説には、「これまで、アレルヤ唱(詠唱)はすべてを一同が通して歌うことが多かったと思います。今後は、アレルヤ唱(詠唱)の唱句は聖歌隊あるいは先唱者によって歌われることになり、会衆は「アレルヤ」の部分を書いて参加します」と書かれています(ここでいう「先唱者」は独唱者のことです)。ご関心のある方は、カトリック中央協議会のウェブサイトにて、「新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所」で検索なさってみてください。(典礼部)

・小教区評議会で討議・検討し、決定した「自由献金の取扱い」を以下に掲載します。（編集部）

2026年1月28日

### 自由献金の取扱いについて

財務部

#### 1. 自由献金の意向区分

自由献金には、以下の4つ意向に区分して取り扱う。

- ① 愛の献金
  - ・世界の中で危機に陥っている場にいつでも緊急支援を目的とする献金。
- ② 東ティモール献金
  - ・東ティモールのイエズス会の学校生徒に在籍する生徒への援助。
- ③ 一粒会献金
  - ・大阪高松大司教区の教区神学生の養成援助、神父様の日本語研修支援。
  - ・仁豊野ヴィラ施設修繕費の助成。
- ④ 修繕積立献金
  - ・将来の中長期修繕・更新に備えるための積立献金。

#### 2. 献金意向の確認

- ・献金者は、献金の意向を明示することができる。
- ・意向が明示されない献金は「その他献金」とし、主任司祭および議長・副議長・書記で構成される評議会役員会（以下「役員会」という）において、適切な意向区分を決定する。

#### 3. 愛の献金の扱い

- ・愛の献金は、イエズス会、教区またはカトリック教会公認の救援団体を通じて送金する。
- ・必要に応じて、被災した教会の復旧支援に充当することができる。

#### 5. 愛の献金用途の拡大

- (1) 愛の献金として集められた献金であっても、役員会の承認を得て、以下の用途に使用することができる。
  - ① 社会的弱者を支援するカトリック系ボランティア団体への寄付
  - ② 教会内外を問わず必要に応じ、緊急性の高いと認められる場合
- (2) ①の使用できる金額の上限は50万円とする。
- (3) 上記の用途に使用した場合は、信徒に対して適切に報告する。

以上

## 教会学校便り 震災31年ミサと講演会



1月17日（土）、教会学校の子どもたちは、始業式で阪神・淡路大震災についてのお話を聞きました。31年前のその日、突然多くの命が失われた出来事に、子どもたちはそれぞれの心で向き合っていたように思います。

その後に行ったミサでは、渡辺神父様の説教を静かに聞き、日々の生活が家族や多くの人たちに支えられていることや、互いを思いやる大切さについて心を向けました。普段よりも少し落ち着いた表情でミサに与る子どもたちの姿

から、小さな心の中にも、祈りの心がゆっくりと育っていることを感じました。（辻原 華）

# 越年越冬

越年越冬活動が行われた市役所南の花時計広場（東遊園地）には、六甲教会も元旦と4日が当番に当たっていて、親子で、また友達同士で炊き出しに参加しました。全体説明の後、各々が作業分担して、元旦は「お雑煮」とおにぎりを作りました。中のお餅は炭火で香ばしく焼かれ、約150人の皆さんに配ることができました。お代わりにたくさん並んでくれました。ボランティアにも配られて、一緒に舌鼓。

また、カトリック社会活動神戸センター代表の木谷公士郎氏からは年末の防寒具寄付を含む以下のお礼の言葉をいただきました。



## 《 お礼 》

この冬も毛布や防寒着等のご寄付をいただきありがとうございました。寒さも厳しくなり、居宅をなくしてしまった人たちのために、その方たちが新たにアパート等に入居する際に、有効に活用させて頂いております。また、緊急に呼びかけさせていただいた折りたたみの長机は、小野浜公園にて傷んでしまったものと差し替えて、週3回の炊き出しに使用いたしております。

ご寄贈、ご寄付いただいたみなさまをはじめ、お心をお寄せくださったすべてのみなさまに、心より御礼申し上げます。

この年末年始も神戸市役所南、東遊園地・花時計広場において越年越冬活動が行われました。12月27日から1月4日までの9日間、延べ1,322名の方がこの期間の炊き出しを利用され、2名の方が相談を通じて新たに居宅に入居されました。平均で148食という配食数は前回（131食）を大きく上回るものであり、生活困窮のひろがりを実感させられました。

一方で六甲教会のみなさまをはじめ、一日あたり平均53名の方のボランティア参加をたまわり、コロナ禍により減少を余儀なくされた支援の手も着実に回復してきていて心強いかぎりです。

これからも、週3回の炊き出し、夜回り、生活相談等の日常活動の場が、家をなくしてしまった人たち、生活困窮による困りごとをかかえているすべての人たちにとって少しでも安らげる場所、解決への糸口を見出すことのできる場になるよう、日々の取り組みをすすめてまいります。今後ともかわらぬご支援ご協力をたまわりますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながらあらためてみなさまのご協力で御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2026年1月17日

カトリック社会活動神戸センター 代表 木谷 公士郎

### 【社会活動部の今月の予定】

2月4日（水） 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

2月14日（土） 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド（中央区小野浜町3）。一緒に車で行かれる方は、六甲教会に10時集合です。教会事務に事前にご連絡下さい。

2月16日（月） 9時半 ともしび会 教会台所（児童養護施設の子もたちへのケーキ作り）

## 私の好きな聖書のことば



「・・・思い悩むな。どんな小さな生き物、野の花にでも心をかけて下さる神様の豊かな愛…」 (マタイ6章 25 節より)

私の好きな聖書の言葉はマタイ 6 章 25 節にはじまる「思い悩むな。どんな小さな生き物、野の花にでも心をかけて下さる神様の豊かな愛…」という箇所です。その御言葉に救われ励まされながら生きて参りました。

昨年の暮れに文箱を整理していると、ずいぶん前に片柳神父様からいただいた一枚のカードが出てきました。一輪のクリーム色の薔薇（あとからわかったのですがヨハネ・パウロ 2 世という品種の薔薇です）が写っているカードで、そこに添えられていることばは以下のようなものでした。

死ななければならないことを悲しむより  
生まれてこられたことを感謝できますように。  
別れなければならないことを嘆くより  
出会えたことを感謝できますように。  
すべては恵みであることを、いつも忘れずに  
いられますように。



この文言は「悲しみの向こう」という片柳神父さまの著書（教文館刊）の中で紹介されています。この言葉に私はまた大きな感銘を受けたのでした。まさしく「思い悩むな」ではないでしょうか。文箱を開けなければ気が付かなかったであろう一枚のカード。夫を天国に見送った私の心に響く言葉を、片柳神父様を通して神様は下さいました。その御言葉はいつも座る私の前に夫の写真とともに置いてあります。神様のはからいに感謝しています。

(マリア・ベルナデッタ 藤原 公子)

### 編集部註

「悲しみの向こう」は教文館から 2024 年に初版が発行された。

サブタイトルは「希望の扉を開く言葉 366」となっており、片柳神父が 366 回のひとつひとつに短い題をつけ言葉を紡いでいる。2024 年はうるう年であったため 366 の言葉が一日一句のペースで毎日紹介されていて、上記の文言は同書 288 頁目・9 月 29 日の項「感謝の祈り」という題の一文である。

## ≪ 新成人の祝福 ≫

1 月 11 日（日）主の洗礼の祝日ミサ（10 時）中に新成人の祝福式が行われました。ことしの新成人でミサに与ったのは 4 人のみなさん。司式の加藤神父は「古代の銅鏡は最初何も映らないが磨くうちに鏡として光るようになる。磨くとは実は傷つけていること、傷をつけることで鏡は光る。人間も同じ、無数の傷を負うことによってひとは磨かれる」、というお話をされました。今年は新成人のお祝いを兼ねた新年会は行われませんが、人生の若々しい節目にあたって、新成人はこれから羽ばたいてゆくことでしょう。



## 《 第2回ハラスメント研修会 》 —————六甲教会ハラスメント対応委員会主催

1月25日(日)の10時ミサのあと、大阪高松大司教区ハラスメント対応委員会委員の敷島康雄氏を招いて「教会とハラスメント～最近の教区ハラスメント対応委員会から見えるもの」をテーマに講演会が行われました。イグナチオホールでの聴講者は約50人。教区でのハラスメント対応委員会の発足は2010年で、当初はセクシャル・ハラスメントに対応するものでしたが、その後、相談内容は対人関係等に関するものの方が多くなってきたところから、2023年に“ハラスメント対応委員会”と名称を変えました。2022年からの3年余りの間の教区相談件数は370件で、主な内容は、「対人関係42%」「生き方14%」「家族関係12%」「性暴力4%」など。多様なこれらの問題に対応するにあたり、教区では「ハラスメント対応ガイドライン」に『シノダリティ宣言』を盛り込みました。その中では加害者→行為者、被害者→被行為者と文言を変更し、問題を善・悪でとらえて悪をやっつけてせいせいした、ということではなく、両者を取り巻く共同体の中で温かい人間関係を取り戻すことを目指して、関係の修復を目指そうというもの。人間的な思い・感情からは困難を伴うものですが、私たちの信仰が本来求めていることでもあり、共に祈り歩いて行くにはどうするかを話されました。

### 宣教・養成部 講演会お知らせ～東北巡礼の旅を前に～

今、なぜ東北地方のクリシタンを取り上げるのか？

宣教・養成部では、これまで数年にわたって、福者ユスト高山右近、細川ガラシャの足跡をたどる巡礼を主催してきました。それらの巡礼準備のために、日本にキリスト教が伝えられてからの歴史やクリシタンとなった人物とその背景を調べているうちに、禁教が続くなか、東北においても多くのイエズス会士が信徒を助け、また大きな迫害があったことを知りました。日本の殉教地といえば長崎や山口津和野などを想起しますが、東北にも所々に殉教地があります。

東北地方の殉教地へも巡礼したい、との思いから、今年は5月に東北地方への巡礼を企画しています。巡礼を前に、長く青森を拠点としておられる木鎌耕一郎氏に、東北地方のクリシタンについてご講演いただくことになりました。

皆様どうぞご参加ください。(宣教・養成部 橘 道子)

- テーマ「東北地方のクリシタン」
- 日 時：2026年3月1日(日) 11時30分～
- 場 所：主聖堂
- 講 師：木鎌 耕一郎氏(神戸松蔭大学 宗教主事、  
人間科学部ファッション・ハウジングデザイン学科 教授)

### シナピス移動学習会『日本の農業と食料安全危機』

**今、私たちの食卓に並ぶ食べ物は、本当に安全なのか？**

講師 小山 博威氏(神戸市中学校 理科教員/主幹教諭)



- ・と き：2026年2月28日(土) 14:00～
- ・と ころ：カトリック住吉教会 聖堂
- ・主 催：神戸地区社会活動委員会(シナピス神戸)
- ・参加費：無料

## 【2026年2月行事予定表】

| 日   | 月                  | 火                    | 水   | 木                               | 金  | 土             |
|---|--------------------|----------------------|---|---------------------------------|--|---------------|
| 1   | 2                  | 3                    | 4   | 5                               | 6  | 7             |
| 年間第4主日<br>手話ミサ<br>10時ミサ中<br>イグナチオ喫茶<br>10時ミサ後   | 主の奉献               | 福者ユスト<br>高山右近<br>殉教者 |   | 日本26聖人殉教者<br>(聖パウロ三木<br>と同志殉教者) | 初金ミサ<br>7:00 10:00<br>◎灘西・中央               |               |
| 8   | 9                  | 10                   | 11  | 12                              | 13   | 14            |
| 年間第5主日<br>小教区評議会<br>2026年度行事<br>予定調整会議<br>11:30 |                    |                      | 世界病者の日<br>教会事務休み<br>(建国記念<br>日)                         |                                 | ◎東灘北1                                      | 社会活動部<br>炊き出し |
| 15  | 16                 | 17                   | 18  | 19                              | 20   | 21            |
| 年間第6主日<br>地区役員会<br>11:30                        |                    |                      | 灰の水曜日<br>ミサ7:00<br>10:00 19:00<br>(すべてのミサで<br>灰を受けられます) |                                 | 十字架の道行<br>10:00<br>◎お掃除改善<br>プロジェクト<br>チーム |               |
| 22  | 23                 | 24                   | 25  | 26                              | 27   | 28            |
| 四旬節第1主日<br>施設管理部会<br>11:30<br>典礼部会 13:00        | 教会事務室休み<br>(天皇誕生日) |                      |   |                                 | 十字架の道行<br>10:00<br>◎東灘北2・<br>芦屋            | 教会報3月号印刷      |

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

### ＜修道院閉鎖のお知らせ＞

マリアの宣教者フランシスコ修道会（F. M. M.）神戸修道院はこの度6月をめどに閉鎖することになりました。神戸修道院は神戸海星女子学院の事業を通して79年の長きにわたりお世話になりました。

また、六甲教会ではごミサ、様々な教会行事に参加しながら多くの方々との出会いを持つことができました。心から感謝を申し上げます。これからも心を合わせて皆様と祈りを通して一致してまいります。

神戸修道院 院長 高木 f. m. m.

### 【編集後記】

◇この教会報が届くのは衆議院選挙の舌戦たけなわという頃でしょう。

投票日は2月8日（日）。教会は灰の水曜日が18日ですから四旬節に入る直前の時期です。世界情勢の激変に伴い、日本の政治も転換期を迎えるような気がします。キリスト者としては社会がどのように変化しても、聖週間の内省と祈り、希望の復活を待ち受ける心を持ち続けていきたいものです。（余）

次回3月号の印刷・発行は2月28日（土）10時半からです。

原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。

(renraku@rokko-catholic.jp)。皆さまからのご寄稿をお待ちしています。

・教会ホームページ（右のQRコード）をご登録ください。教会報や教会の行事等が御覧になれます。

### カトリック六甲教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

発行責任者 加藤 信也  
編集 広報部

